

# よりよい訪問看護のために松江市内のステーションが結束!

株式会社花みずきナースステーション 代表取締役 高橋京子さん



松江市内の訪問看護ステーションは、定例会で情報共有をして、まるで一つの大規模ステーションのよう? そんなステーション・ネットワークの中心を担っている、花みずきナースステーションの高橋京子さんにお話を伺いました。

## 訪問看護にはまった

1988(昭和63)年、高橋さんは、島根県看護協会が始めた訪問看護のモデル事業に参加しました。

「看護師は病院にいるものと思われていた頃です。私は、ノーと言えないので、よくわからないまま(笑)、関わることになりました。それまでは急性期病院と保健師の仕事をしていましたから、衝撃を受けました。当時は寝たきり老人という言葉が使われ、そこには看護介入がなく疲弊した家族の姿がありました。今まで何をしていたんだろう、と涙が出ました。訪問看護に携わって、生気を失くしていた人が回復し、笑ってくれるようになりました。お風呂に入って、おばあちゃんがいい匂いになると、ご家族も気持ちがいいと聞



高橋京子さん

係性も変わっていきました。私でも役に立つことがあるんだ、看護は面白いと、はまりました」

## 訪問看護ステーションの所長、そして独立

1992(平成2)年に、島根県看護協会が訪問看護ステーションをオープン。高橋さんも参加し、2年目からは所長を務めます。

「所長だと言っても、右も左もわからないし、病院とはリスク管理も違いま

す。当時の看護協会長の、看護の自立」という言葉に訪問看護の未来を感じました。医師の診断のバトンを受け、自分の判断で患者さんをケアしていくのだ、看護は従属ではないのだと考えました。自立を守るためには、責任を負わなければいけないし、いろいろ勉強しないといけません。また、職員の頑張りにも応えなければいけない。

17年間看護協会の訪問看護ステーションにお世話になり、県内での拡大にも関わってきました」

高橋さんは、2009(平成21)年に独立し、花みずきナースステーションを立ち上げました。

## 島根県訪問看護ステーション協会がスタート

1997(平成9)年に、島根県訪問看護ステーション協会が発足しました。同協会では、島根県から委託され訪問看護師の研修事業などを行なっています。県内のステーションも増え、圏域ごとに抱える事情が異なることから、2013(平成25)年に支部が作られました。花みずきナースステーションが

所属する松江支部には、約30か所の訪問看護ステーションが参加しています。松江支部では、毎月定例会が開かれています。

「当初は、訪問優先ということで、集まりは少人数でした。それでも、議事録はすべてのステーションに配っていました。定例会では有効な話が聞けると、次第に参加者が増えてきました。今では、定例会の日は、訪問を調整して必ず参加するという人もいます(笑)」

## 「訪問看護の情報提供書」の統一化

松江市には、3つの総合病院がありますが、各病院の退院調整看護師は必ず定例会に参加されています。

「訪問看護ステーションがもっている現場の生の声を聞くことで、退院調整に役立ち、また、訪問看護のスタッフも、病院からの情報が入ってくるの

訪問看護の情報提供書。パソコンで必要項目を入力して、病院の担当者に送信する

で、勉強になります。毎月参加していると、お互い顔見知りになり、つっこんだ話し合いもできるようになりました。病院の看護師も、退院調整の見方が変わったと言っています」

そのようなやり取りから退院された方の情報を病院に伝える際の「訪問看護の情報提供書」の統一化が図られることになりました。

「形式も、記載されている項目も、訪問看護ステーションによってまちまちでした。一生懸命書いてもきちんと見ても見えなかったり、逆に欲しい情報が書いていなかったり、とステーションによって温度差もありました。最初は、全部のステーションから情報提供書を持ち寄って、病院の方にも参加してもらって、それぞれのいいところ、悪いところをみんなで検討するところから始めました。そうやって統一した記録用紙は、いい評価をいただきました」

使い始めて、少しずつ修正して、現在は第7版が使われています。

## 優秀な訪問看護師を一人でも多く育てたい

「情報提供書の統一は、看護の質の底上げにも役立っていると思います。情報共有して一定のレベルをみんなが保つことで、場合によってはお互いに助け合うこともできます。また、医師をはじめ他職種との連携もスムーズになりました。この人は、何が問題で、

何を必要としているのか、情報共有しやすくなりましたから」

これまでの活動の積み重ねから、松江支部の定例会にはさまざまな情報が集まるようになりました。

「ここから、松江市内全部の訪問看護ステーションに情報が流れますから、あそこは無視できない、という存在になっています(笑)。各団体や行政、製薬会社の人たちもやってきます」

また昨年(2018年)から松江赤十字病院の看護師出向も受け入れています。出向者は1年間、訪問看護の業務を行います。

「短期間の研修では理解できないことも残りますが、1年間だと、患者さんや家族の見方が変わります。嬉しいのは、看護師が『この人にとって何が幸せなことなのか』を常に考えられるようになることです」

「私の目標は優秀な訪問看護師の育成です。自分の考えをちゃんと持っている、看護の技術と知識はもちろん、マネジメント能力も持った看護師を一人でも多く育てたい。在宅で療養されている患者さんのために」



花みずきナースステーション